

### (2) 服装に関する部品

衤と衤とはたいへんなちがい

衤と衤と、よく書き誤られます。たとえば、初を初と書く人がよくあります。これなど、衤と衤の意味を知り、初の意味がわかれば、決して書き誤ることなどないでしょう

衣 四年 イ ころも 衤 で、着物の上の部分の象形文字です。衤は、衣をへんにした形ですから、「ころもへん」といい。着物の意味に使われます。衤は、示をへんにしたかたちですから、「しめすへん」といい、神さまのしるしに使いますから、形は似ていても、たいへんなちがいがあります。

裳 シヨウ もすそ 尚は上で、「上に加える」意味の字です。衣を着て、その上に裳をはくのです。むかしはこれを「も」といいましたが。いまでいえばスカートです。衣と裳で、一組の着物になるので、着物のことを「衣装」というわけです。

表と裏

表 三年 ヒョウ おもて あらわす 表の間に土(𠂔で毛の象形文字)を入れた字です。むかしは、獣の毛皮を身につけ

ましたが、毛のほうを「おもて」に「あらわす」ので、毛と表とで、「おもて」「あらわす」という意味を表わしたのです。

裏 リ うら これと同じ考え方で、表の間に、里(城壁に囲まれた内がわが里なので、内がわの意味)という字を入れて、「衣の内がわ」という意味を表わしました。裡と書くこともあります。いまでは、表も裏も、衣に関係なく使います。

初 四年 シヨ はじめ はじめて はつ 着物をつくるには、まず形をとって、切るこ(せつだん)と(截断)から始めます。それで、衣と刀とで、「はじめ」という意味を表わしました。これで、初と書いてはいけないことがわかるはずですが。これでは、「神さまを切る」ことになり、さっそ(ばち)く罰があたって、0点です。

俵 五年 ヒョウ たわら 人の表ですから、「着物」のことですが、いまでは、人の着物を俵といわず、「人の命を養ってくれる米」を尊敬して、「米の着る着物」を俵といいます。すもうの土俵は、米俵に土が入れてあるから「土俵」というのです。

復は日に意味がある

複 六年 フク 復は、白と夂(止)で、「ものの重なる」ことを表わした部首です。つまり、人(やね)の下の日が、ほんとうの意味を表わしているたいせつな部分です。複は「布地を

重ねて作った衣」という意味で、あわせのことで、ひとえは一重ということばですが、複衣に対して単衣と書きます。単はシングル、複はダブルにあたります。いまでは、衣に関係なく、重なり合った意味で、複雑などと使います。

**復** 五年 フク  
 複とまちがえやすいのが復です。しかし、**彳**が道のしるしですから、復は、「同じ道を重ねていく」こと。つまり、「行った道をかえる」ことです。だから、往復というように使います。

**腹** フク はら  
 月ツキは肉のしるしで、からだの部分の名前に使われるしるしです。腹は、「**内臓**の重なっているところ」、つまり、「はら」です。

### 巾はぬのきれ

巾は「ぬのきれ」の象形文字で、とてもよく使われる部首ですから、ぜひ覚えておかなければならないものの一つです。

**布** 五年 フ ぬの  
 いまは、巾の意味に使われていますが、もとの字は巾より上等なぬののことでした。もとの字は、父と巾を合わせた**希**という字だったのです。ハが取れて**希**となったものですから、「一ノ」というように書かないで、「ノ一」という順序に書くわけです。「父ちちの使う巾ぬの」ですから、「上等のぬの」のわ

けですね。

**希** 五年 キ  
 父と巾とを合わせた**希**という字です。父は、刺繍の象形です。ですから希は、「刺繍の飾りのあるきれいな巾」です。こういう美しい布はたくさん作れませんので、「少ない」という意味と、だれでもほしがるところから、「のぞむ」意味に使われます。希少価値・希望

### 長は「ながい」ではない

**帳** 四年 チョウ  
 長は、ながい毛の老人つえが杖をついている形を表わした字です。「年長者」という意味で、「すぐれた」「りっぱだ」というのがもとの意味です。校長の長も、そういう意味で、「ながい」の意味ではありません。

**長** 二年 チョウ ながい  
 帳は「ながい布」という意味です。商店でお金を勘定かんじょうするところに、外から見えなように長い布をはったので、これを帳場といい、この帳場で使う書きつけが、帳簿ちょうぼです。帳づらちやうづらを合わせるという、帳づらちやうづらを、漢字で帳面と書き、いまの帳面ということばができました。帳面は帳場で使うものですが、いまでは、ノートの意味に使います。

**脹** チョウ  
 長は、「大きくなる」「ふくらむ」意味にも使われます。脹は、「筋肉がふくらむ」「はれる」

**張** 五年 チョウ はる  
 という意味に使われます。張は、「弓をはる」  
 ことです。弓を引き絞ると、大きくふくらむか  
 らです。

常はスカートのことです

**常** 五年 ジョウ つね  
 裳の衣が巾になった字です。もとの意味  
 は裳と同じです。ですから、スカートのことで、  
 女の人の平常着(ふだん着)です。それで、「つね(ふだん)」という  
 意味に使われるようになりました。平常・日常。また、「変わらない」と  
 という意味にも使います。恒常

**席** 四年 セキ  
 席と巾でできています。人のすわるところ  
 には布を敷くので、「人のすわるところ」を席  
 というのです。座席

**帯** 五年 タイ おびる おび  
 むかしの人は、腰にひもをまいて、これに  
 七つ道具をぶら下げました。これが卍です。  
 また、別に、手ぬぐいを腰にぶら下げましたが、これが卍です。帯  
 は、「身につける」、つまり、「身におびる」ことですが、腰にまく「お  
 び」という意味にも使います。おびということばは、身におびる、とい  
 うことばからできたことばです。

**幅** フク はば  
 幅は富で、「いっぱい」の意味があります。

「布がいっぱい」とは、「布のはば」のことです。副・幅・福のちがいを、  
 しっかり覚えてください。

莫は夕ぐれの意味

莫は 𠄎と 𠄎の間に日がある形ですから、「夕ぐれ」の意味の部首  
 です。

**幕** バク マク  
 昼でも、夕ぐれのように、家の中を暗くさ  
 せる働きのある巾が、幕です。幕の音は、莫  
 (ボ)の変化したものです。

**慕** ボ したう  
 心は心の変形で、あしによく使われる形で  
 す。下にあるので「したごころ」と、呼ばれて  
 います。慕は、「夕ぐれの心もち」です。人が「したわしく」なるのは、  
 よいやみ迫るころだというのは、いまもむかしも変わりありません。

**募** ボ つのる  
 「つのもり集める」ことを募集といいます。広  
 く求めて、日のくれるまで、努力するもので  
 すから、莫と力で表わしました。有名校では、そんなに努力をしなく  
 ても人が集まりますから、「募集」というのはおかしいわけです。でも、  
 受付に夕ぐれまでがんばってもとても終わることができないので、や  
 はり募集ということになりますか。募などと、ぶっそうな刀を使わない  
 ように。

墓 六年 ボ  
はか

これは、人生の夕ぐれです。土の中の暗  
いところ、つまり「おはか」です。

暮 ぼ  
くれる  
くらす

莫だけで、「くれ」の意味ですが、幕・慕・  
募・墓など、いろいろまぐらわしいので、「日  
ぐれ」には日をつけたわけです。いまは、「年の暮れ」というようにも  
使います。

### 糸は色を表わす

糸は、より合わせた「いと」の形を表わした字です。糸は、人間生  
活にたいせつなものですから、部首としても、よく使われます。

絵 三年 カイ  
エ

会は合と同じで、「あう」という意味の字で  
す。糸は「色」を表わしています。ですから

絵は、「色を合わせる」ことで、つまり。「え」のことです。たくさんの色  
を組み合わせて、はじめてりっぱにできあがります。

紙 二年 シ  
かみ

氏はシの音を表わしています。むかしは、  
絵で文字でも、絹きぬを使いました。これが紙で

す。いまでも絹を使うことがありますし、いまの紙だって、材料は  
繊維せんいですから、「糸へん」でおかしくはありません。

紀 五年 キ

己は己で、糸の曲がりくねった象形です。  
紀は、「糸すじ」という意味ですが、「筋道」

「きまり」という意味に使われています。

### 糸と細とはもとは同じ

細 三年 サイ  
ほそい  
こまかい

田はサイという音を表わすしるしで、形は  
田と同じですが、もとは田たで、全然ちがうも

のです。糸の音は、いまはシですが、もとはサイもシも同じ音だった  
のです。サイがつまればシになり、シが伸びればサイになります。ロ  
ーマ字の「i」がそうです。アイと発音したり、イと発音したりします。英  
語のsignに、alをつけると、signalになるのと、まったく同じです。む  
かしは、糸も細も、同じ発音で、同じ意味に使っていたのですが、の  
ちに「いと」そのものは糸、糸の「ほそい」意味は細と使い分けるよう  
になったものです。いまでは、ほそいと似た「こまかい」という意味に  
も使われます。

### サイ 田は頭の形です

細の田は、田たで、実は頭の形を上から見たところす。音は、サ  
イとシとあることは、前にもお話したとおりです。

思 二年 シ  
おも

田は「頭」の意味で、この字では、意味も音  
も使われています。心は心こころで、心臓の象形

心 二年 シン  
こころ

文字です。「心臓」という意味がもとの意味で、

「こころ」という意味にも使います。心臓が止まると、「こころ」の働きが止まるので、むかしの人は、思考作用は心臓にあるのだと考えたからです。思は、田(あたま)と心(心臓)とで、思考の意味を表わしました。

売には二つの意味がある

**続** 四年 ソク つづく  
売は賣と賣との略字です。賣は、「品物を売る」ことで、賣は、「切れないように続ける」ことです。形はとてもよく似ていますが、意味はまるきり違います。続は、「糸が切れずに長く続く」という意味の字ですから、この売は賣のほうで、賣ではありません。

**読** 二年 ドク トク よむ  
この売も、賣ではなくて、賣です。「言(ことば)がとぎれないように、つづけてよむ」ことです。だから、わからない漢字が多くあって、つかえつかえよむのは、「読む」とはいえないわけです。ドクの音は賣のなまりです。

**結** 四年 ケツ むすぶ ゆう  
切れた糸でもむすぶと「りっぱ」に役立ちます。吉は、「士の言(ことば)」という意味の字です。「りっぱだ」という意味です。士は、一を聞いて十を知る、というような「才能のある人」という意味の字です。「りっぱな人」、ま

たは「役人」の意味に使われます。

経という字

**経** 五年 ケイ キョウ へる  
緯の横糸に対して、これは、「たて糸」のことです。織物は、これが基になりますから、「たいせつなもの」の意味にも使います。中国では、もっとも基本となる書物を経書とかいい、仏教の大切な書物は、経文とか、お経とかいいました。このばあいの経は、「たいせつ」という意味です。経という部首は「たてに通ったすじ」という意味を持っています。

**茎** ケイ くき  
は草花のしるしです。草花の縦に通った筋は「くき」です。  
**径** ケイ  
は道のしるしですから、「まっすぐに行ける近道」という意味です。本道に対して、「せまい小道」です。円の直径は、円の中心を通るまっすぐな線です。

**軽** 四年 ケイ かるい  
「径(みち)に沿って、まっすぐに早く走れる車」という意味で、「かるい」意味を表わした字です。「軽快」というように使います。

**終** 三年 シュウ おわる  
冬は一年の「おわり」だから、終は「糸のおわり」という意味の字になります。つまり、「糸

どめ」「玉むすび」のことなのですが、いまは、糸に関係なく、ものごとの「おわり」の意味に使われています。

**冬** 二年 トウ フユ **冫**は、もと<sup>●</sup>ノで、氷のしるしです。夂は、退で説明したように、止の下向きの形です。

月日がだんだんと進んで、氷の張る季節になる、という意味を表わした字です。

**練** 四年 レン ネル **東**はいまは **東**と同じ形をしていますが、もとは<sup>●</sup>東<sup>●</sup>で、**東**と**ハ**でできています。ハは「分ける」意味があります。「東の中からよいものをえり分ける」ことが**東**です。練は「束ねたたくさん糸の中から、選び出したりっぱな糸」という意味です。「よくねった糸」がりっぱな糸ですから、いまでは、「ねり糸」または「糸をねる」という意味に使い、「きたえる」という意味にも使います。

### 貝はお金のしるし

貝は137ページにあるように、象形文字です。中国大陸では、むかし貴重なものとして扱われたので、「お金」の意味に使われています。音はバイです。

**買** 三年 バイ カウ **𠂔**は、「物を集める」「手に入れる」という意味の部首です。ですから、「お金と引き換え

に、品物を手に入れる」ことを、買と書くのです。音は貝<sup>バイ</sup>です。

**売** 三年 バイ ウル もとの形が賣であることは、191ページで述べたとおりです。**土**は、出の略字です。売は、「買った品物を出す」という意味で、商売の実際をよく表わした字ですね。この字の音も貝<sup>バイ</sup>です。

**貯** 五年 チョ **宁**は**今**で、家の中に物をたくわえる意味の部首です。音は丁<sup>チョウ</sup>のつまったものです。貯は、「お金をたくわえる」ことですが、いまでは、貯水などとも使いますので、お金のばあいは、貯金というようになりました。

### 才は「若木」という意味

**財** 六年 ザイ **才**は、「木が根を張り始めた形」を表わした字です。これから大きくりっぱに成長する「**●●**もと」を意味していますので、「素質」「能力」の意味に使います。**財**は、「働きのあるお金」という意味を表わしています。

**資** 六年 シ **次**と**貝**でできています。資は「命の次にたいせつなお金」という意味。仕事のもと<sup>●●●</sup>でに使うので、資本というように使われます。

**賞** 五年 ショウ **尚**と**貝**でできています。尚は、すでに、裳

●や常で習ったように、上<sup>ジョウ</sup>という意味の字です。賞は、「ほうびとして、上の人からたまわるお金(いまでいう賞金)」という意味の字です。いまは、広く「ほうび」の意味に使います。

堂<sup>四年 ドウ</sup> 尚は<sup>●</sup>尙で、りっぱな家の形でもあります。堂は、「土を高く積んで、その上に建てた家」、つまり、「りっぱな建物」のことです。お寺の本堂や、学校の講堂などに使われています。堂の音は尚<sup>ジョウ</sup>のなまったものです。

費<sup>四年 ヒ ついやす</sup> 弗は、非<sup>ヒ</sup>や否<sup>ヒ</sup>と同じで、「そうではない」という打ち消し<sup>け</sup>の意味の字です。費は、「お金がなくなる」「お金をつかいはたす」という意味です。

壬という部首

賃<sup>六年 チン</sup> 賃金とは、「人としての務め(任務)に対し<sup>●</sup>て支払<sup>しはら</sup>われるお金」のことです。壬は<sup>●</sup>𠂔で、「人の腹部に●をつけて、おなかに赤ちゃんがいる」ことを表わした指事文字です。壬の音は人( 𠂔 )です。

妊<sup>五年 ニン</sup> 壬が「妊娠」の意味ですが、これに女<sup>●</sup>をつけたのが、妊です。

任<sup>五年 ニン まかせる</sup> 壬(妊娠)は、婦人の「人としての務め」ですから、「務め」という意味に使われます。任

務。また、それは、婦人だけにまかせられた務めだというので、「まかせる」という意味にも使います。これで、「賃金」の意味がよくわかると思います。

弋は目じるしというしるし

貸<sup>五年 タイ かす</sup> 代は、「世代がかわる」という意味の字です。だから、貸は、「次の世代へおくるお金」、つまり、遺産の意味の字です。それは、「ただでゆずるお金」ですから、「ちょっとの間だけ、ただでゆずる」こと。つまり、「かす」意味になったわけです。

代<sup>四年 ダイ かわる よ</sup> 弋は、地面に目じるしに立てたくいの象形文字です。代は、「かわりだ<sup>●●●</sup>というしるしをもった人<sup>●●●</sup>」という意味の字です。しるしがないと、ほんとうに代人かどうかわかりませんから。

賀<sup>五年 ガ</sup> 加は、「口(ことば)の足りないところを努力しておぎなう」という意味で、口と力<sup>●</sup>でできています。つまり、「口をくわえる」ことです。賀は、「お金を加える」、つまり、「人にお金を

おくる」ことで、それは、自分の喜びの心を表すことを意味しています。

**賛** 五年 サン  
 ● 夫は夫ぼうしで、帽子をかぶった「一人まえの男子」を表わした指事文字です。いまでは、夫妻・夫婦というように、「おっと」の意味に使います。● 賛は、「一人まえの男子が、ふたりもそろって、これはりっぱな貝だ、とほめたたえる」意味の字です。「ほめる」、また、「助ける」意味に使います。

責の意味は主にある

**責** 五年 セキ せめる  
 ● 主セキは、東セキの略字です。東は、「とげのある木」で、「刺す」「せめる」意味の部首です。責は、「貸したお金を返せとせめる」ことです。これは、「当然すべきことを人に求める」ことなので、「義務」の意味にも使います。

**績** 五年 セキ  
 ● 「糸をつむぐ仕事」です。この仕事は休みなくせめられるようにするので、責という字が使われています。また、「仕事」「できばえ」という意味にも使います。

**貧分** 五年 ヒンビン ますしい  
 ● ● ● 分は八と刀とで物を二つに切りわけること ● ● ● を表わした会意文字です。お金は分けると、少なくなってしまうので、分と貝とで、● ● 「お金の少ない」意味を表わしました。

**貴** 六年 キ  
 ● 貴キは卑の略字です。貴は、「人が両手にいっぱい財宝を持つ」ことを表わした字で、「身分の高い人」を表わしたものです。

**金** 一年 キン コン かね  
 ● 今キンと土キでできた字です。土は、金属が土の中にまじっていることを表わしたものです。金の音は今(キン)です。一般に、鉱物をいっていたが、のち、黄金の意味となりました。

**銀** 三年 ギン  
 ● 良(ギン)は、「下」という意味の部首です。銀は、「金の下の金属」という意味になります。

**根** 三年 コン ね  
 ● 木の下部分、つまり、「ね」のことです。

**恨** コン うらむ  
 ● 「心の底からうらみに思う」という意味の字です。「根にもつ」といううらみ方です。

**銅** 五年 ドウ  
 ● ● 金と同じような色つやがある金属なので、● ● 「金と同じ」という字でできました。金は黄いろっぽいので「黄金」、銅は赤みがあるので「赤金」といいます。